

GA

Global Architecture

148

JAPAN

SEP-OCT/2017



特集

小嶋一浩の手がかり

地形と一体になった礼拝の場

猪名川霊園 礼拝堂・休憩棟

兵庫県川辺郡猪名川町

デイヴィッド・チップパーフィールド アーキテクト

撮影：三川由夫



北東より見る。礼拝堂側の全景

猪名川霊園は、大阪市から北へ約四〇キロに位置する、兵庫県は北摂山系の急斜面にあります。ひな壇状に構成された霊園の中央を一本の階段がまっすぐに貫き、その頂点に納骨堂が立っています。この階段のラインこそは、建築の配置を決定づける軸線となりました。

礼拝堂と休憩棟は、ここを訪れる人々を祈りのための静かな空間へと誘う場所として設計されています。山の中央階段の延長線上、納骨堂と反対の極をなす地点に、来園者の祈りと休憩のための空間を、中庭を取り囲むように配しました。来園者は屋外のアプローチから、南東面中央の大きな開口部をくぐり、一段上がったこの空間に入ります。

建物の構成としては、すべての機能を一枚の片流れの屋根の下に収め、そのラインが、エントランスから納骨堂を見上げたときの視線に沿うようにしました。休憩棟の部屋はいずれも中庭に開かれている一方、礼拝堂だけは切り離されています。礼拝堂へは専用通路で外から直接进入することもでき、また、中庭から伸びるゆるやかな斜路を上がって到達することもできます。最小限の暖房と照明しかない、無垢で静謐なこの部屋は、宗派を問わない純粋な祈りの場です。礼拝堂を訪れた人々にとっては、庭の両側から間接的に差し込む自然光が頼りとなり、ここで外界から遮断されるにつれ、刻々と変化する光や四季の移り変わりが刻む自然のリズムへと、感覚が研ぎ澄まされていきます。庭はいずれも、日本の野山の色合いと質感を思い浮かべながらつくったもので、精選した種々の山野草や低木を緻密に配して

います。

中庭を挟んだ斜め向かいが休憩棟です。低い方の屋根の下に配した二つの大きな部屋は、親族の集いや故人を偲ぶ場として使います。ビジターラウンジは、気軽に休憩したり、食事をしたりできる部屋です。メモリアルームは、布に和紙を重ねた屏風式のカーテンで三つの部屋に仕切ることができ、ここでは法事の後の会食を行います。

建物は床も壁も屋根も、純粋な建築のエレメントとして形づくられています。いずれも赤土色に着色したコンクリートを素材とし、内部の床は磨き仕上げ、回廊の壁と軒下はサンドブラスト仕上げを施して、建物全体を一つの岩の塊のように見せています。家具はすべてこの場所のために特別にデザインし、製作しました。彩色を施したシンプルでカジュアルな木製の椅子、ベンチ、テーブルを、用途に応じて組み替えながら使います。

敷地の両極を結ぶ軸線ともなっている急斜面の階段の真ん中を、山からの水が建物に向かって流れてきます。礼拝堂の脇に位置する、階段の麓の部分に水は速度を緩めて水盤にいったん貯まり、そこから新しい地下水路に落ちて、すぐそばの小川へと向かいます。

二〇一七年五月

デイヴィッド・チップパーフィールド

名称：猪名川霊園 礼拝堂・休憩棟
所在地：兵庫県川辺郡猪名川町
建築主：公益財団法人 墓園普及会
用途：墓園礼拝堂・休憩棟

設計・監理

アーキテクト：
デイヴィッド・チッパーフィールドアーキテクト
担当 / David Chipperfield,
Tom Herre (project architect), Mira Abad,
Matt Ball (design lead), Clemens Gerritzen,
Amandine Kastler, Rik Nys,
Patrick Ueberbacher

プロジェクトマネジャー：川村事務所 担当/川村直子
アソシエイトアーキテクト：キー・オペレーション
担当/小山光, 繁昌昭

ランドスケープアーキテクト：
岩立マーシャ・上村景観設計
ライティングデザイン：ヴィアヴィッツノ Srl
構造設計コンサルタント：佐藤洋構造設計事務所
設備設計コンサルタント：イーエスアソシエイツ
実施設計：大林組大阪本店一級建築士事務所
建築担当：若下博美, 関田弘史, 西田和子,
小倉麻衣
構造担当：安井雅明, 富澤健, 市川幸弘,
高橋健太
機械設備担当：西脇里志, 内海敬, 谷口崇子
電気設備担当：西脇里志, 丸尾彰秀, 高田裕子,
阿野悠世
監理担当：富田昌義, 川副正博, 松田典子

サイン計画：林縁磨デザイン事務所
テキスタイル：布

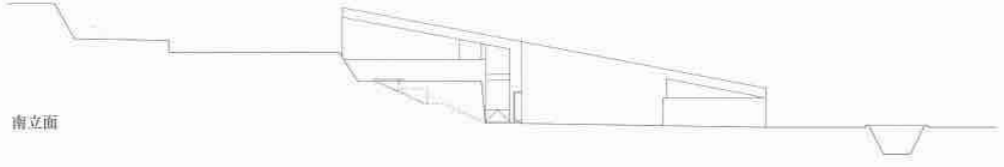
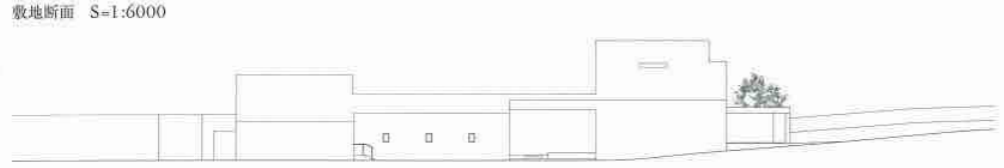
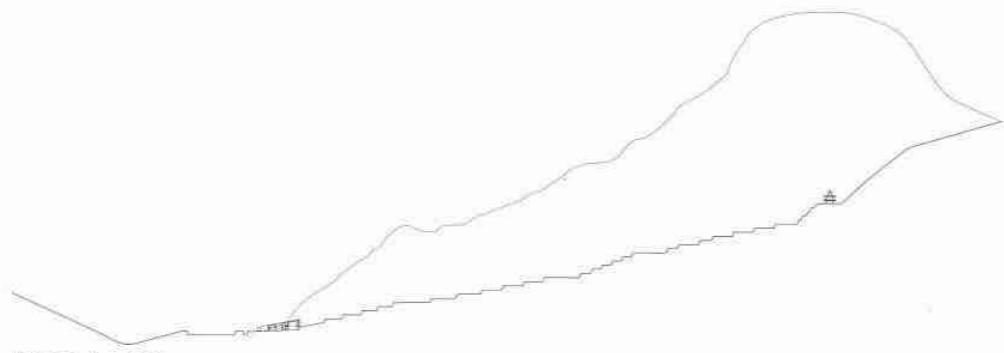
施工
建築：大林組 所長 柳井孝聡
建築担当：長谷川功, 吉野真紀
設備担当：松尾広美
生産技術担当：西正樹
家具：カッシーナ・イクスシー 担当/中村裕介,
鳥山敬
フジマック 担当/小野孝一
カーテン：布 担当/須藤玲子, 増井岳
造園：岩立マーシャ・上村景観設計
担当/岩立マーシャ, 上村純也

規模
敷地面積：144,477.28㎡
建築面積：631.08㎡
延床面積：493.09㎡
建築率：0.744% (容積率60%)
容積率：0.648% (容積率200%)
各床面積：1F / 369.40㎡ (室内)
階数：地上1階 階高：4.5m
天井高：6.015~7.413m(礼拝堂)
2.746~3735m(メモリアルルーム)
最高軒高：9.059m 最高高さ：9.059m

期間
設計期間：2013.01-16.02.
施工期間：2016.03-17.04.

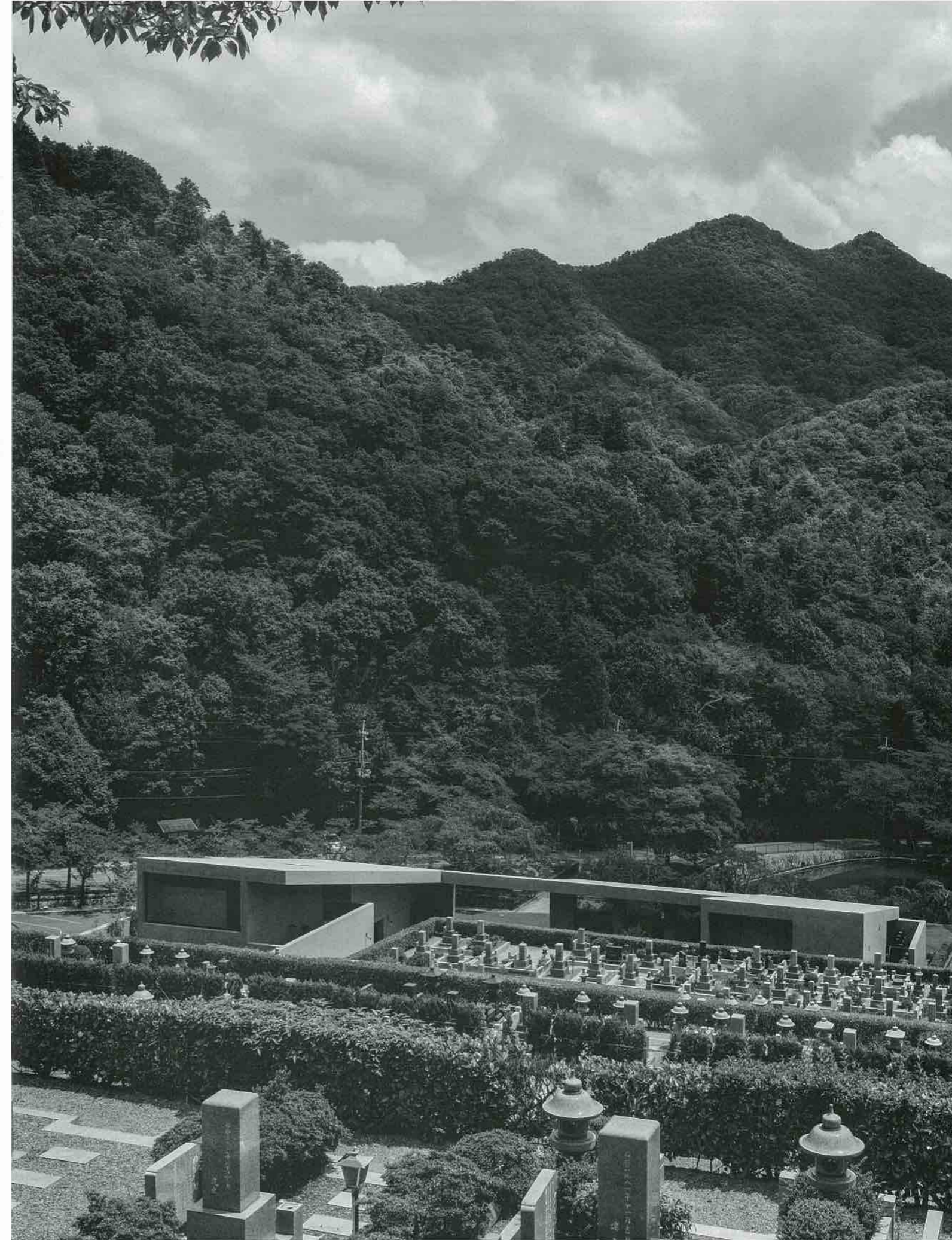
敷地条件
地域地区：市街化調整区域, 宅地造成規制区域
道路幅員：7.5 m

構造
主体構造：鉄筋コンクリート造
杭・基礎：布基礎およびベタ基礎
仕上げ
壁・床・天井：赤カラーコンクリートサンドブラスト
仕上げ
内部床：テラゾー仕上げ
内部壁：ペイントガハネル白ステイン仕上げ
扉：オーク無垢材黒ステイン仕上げ
開口部：ステンレスサッシ黒染付塗装仕上げ



- 1 駐車場側エントランス
- 2 礼拝堂
- 3 樹々の庭
- 4 祭壇
- 5 受付
- 6 書庫
- 7 スタッフルーム
- 8 スタッフ更衣室
- 9 エントランス
- 10 メモリアルルーム
- 11 WC
- 12 ビジターラウンジ
- 13 自動販売機
- 14 バントリー
- 15 機械室
- 16 山野草の庭
- 17 回廊
- 18 水盤

西側、雲園より見下ろす。地形に合わせて埋め込まれた傾斜屋根のヴォリューム





東面の駐車場側エントランス



エントランスの水盤。右奥に「山野草の庭」



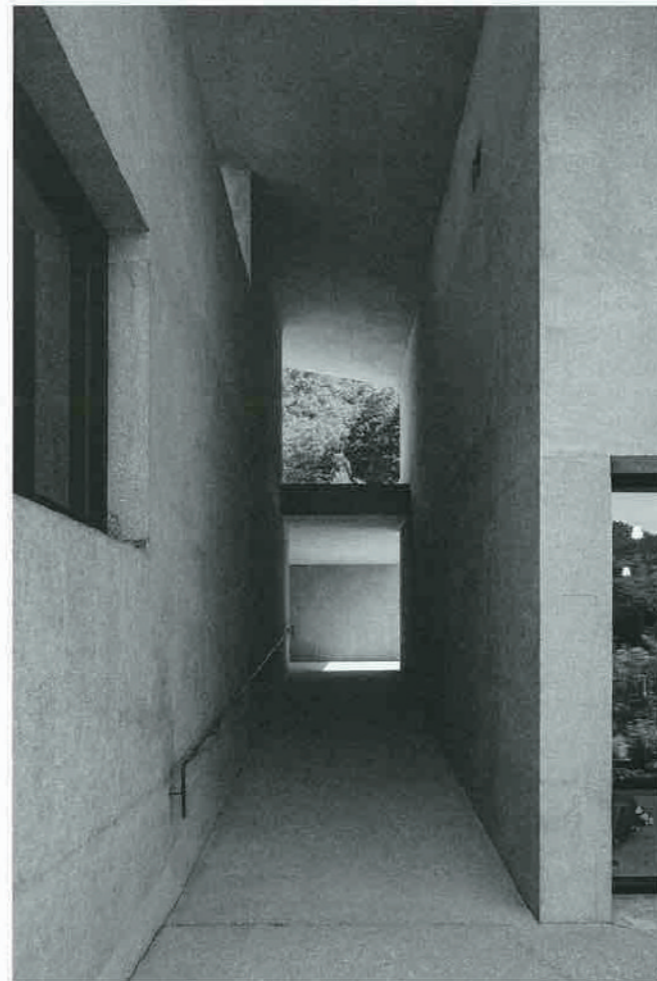
北西より見る。左に礼拝堂、右にビジターラウンジ。建築は谷筋の地形や水の流れを考慮して配置され、霊園と外界の関となる「山野草の庭」を中心に据えている



正面側のエントランス。既存の霊園の軸線の流れを流れてきた山の水は、「山野草の庭」の前後に配置された水盤にいったん貯まる



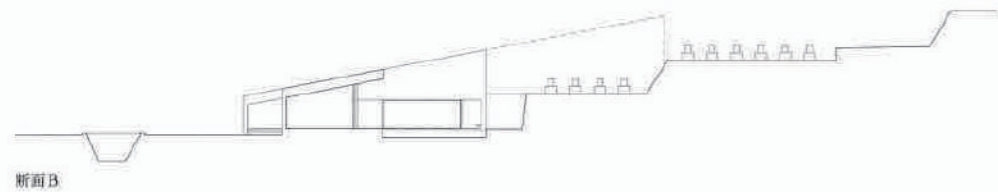
ビジターラウンジの北西側から「山野草の庭」と雲間につながる回廊



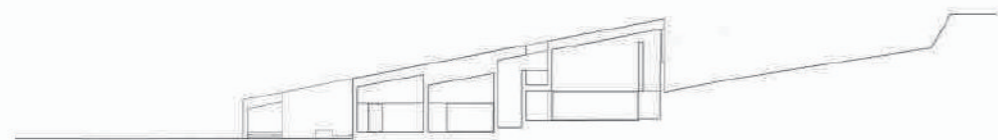
礼拝堂へのアプローチ。屋根や壁の操作で間接光や風景を取り込んでいる



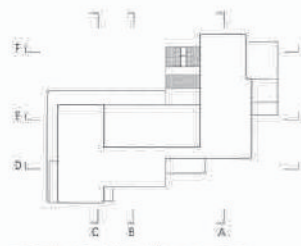
「山野草の庭」。回廊を通して正面、休憩棟のビジターラウンジに至る



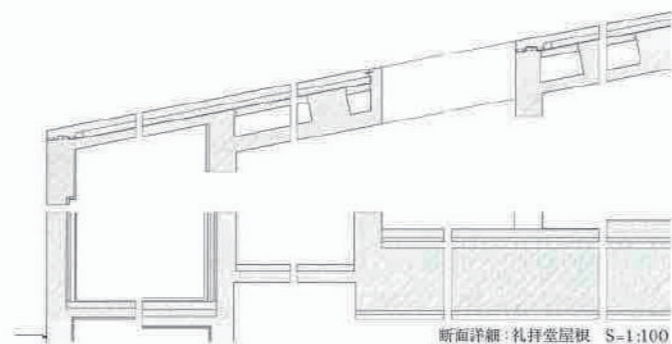
断面B



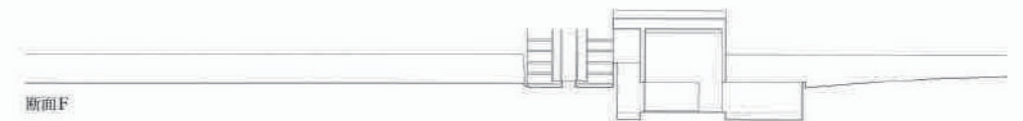
断面A S=1:600



断面キープラン(屋根伏) S=1:1500



断面詳細:礼拝堂屋根 S=1:100



断面F



断面E



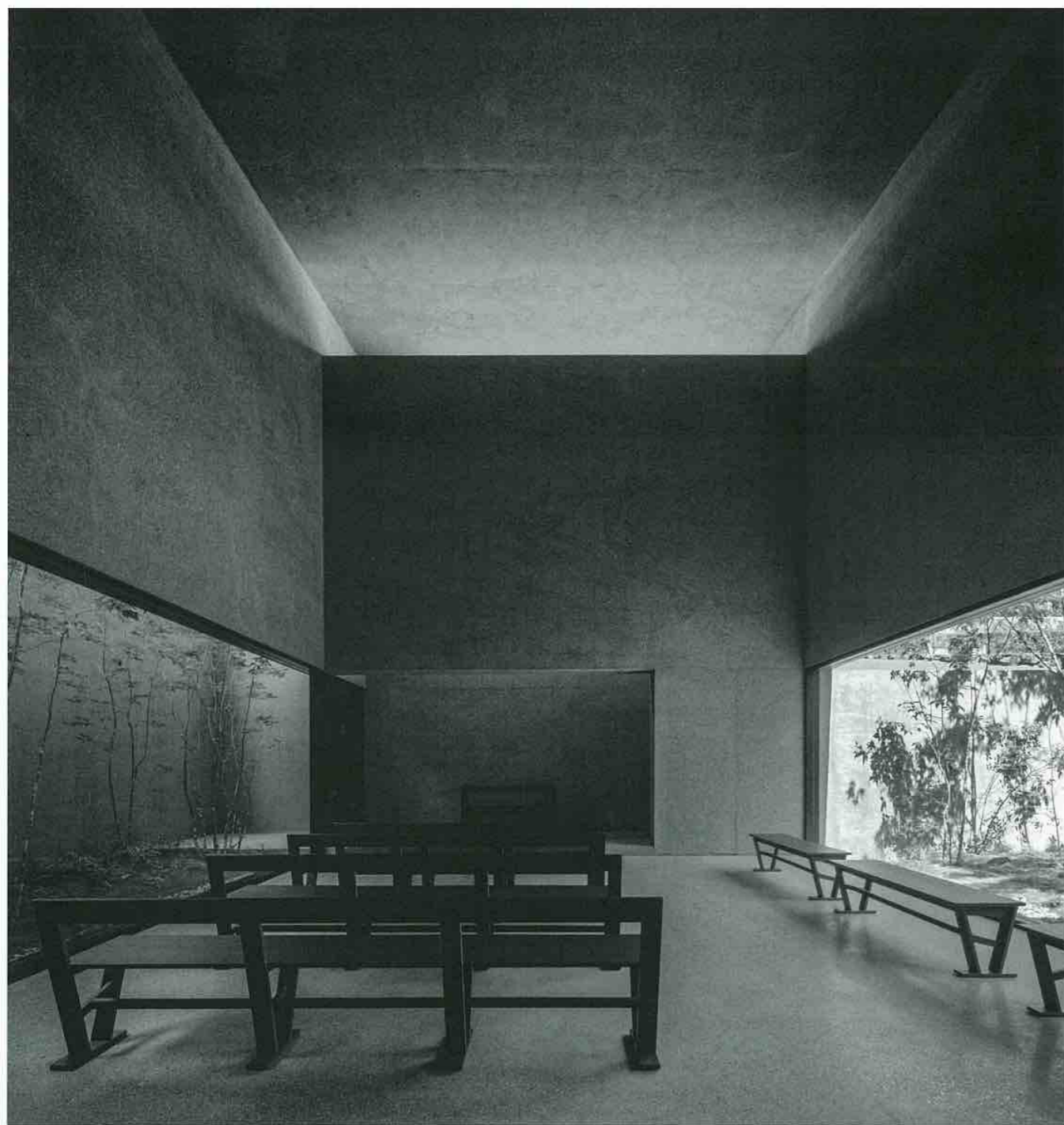
断面D



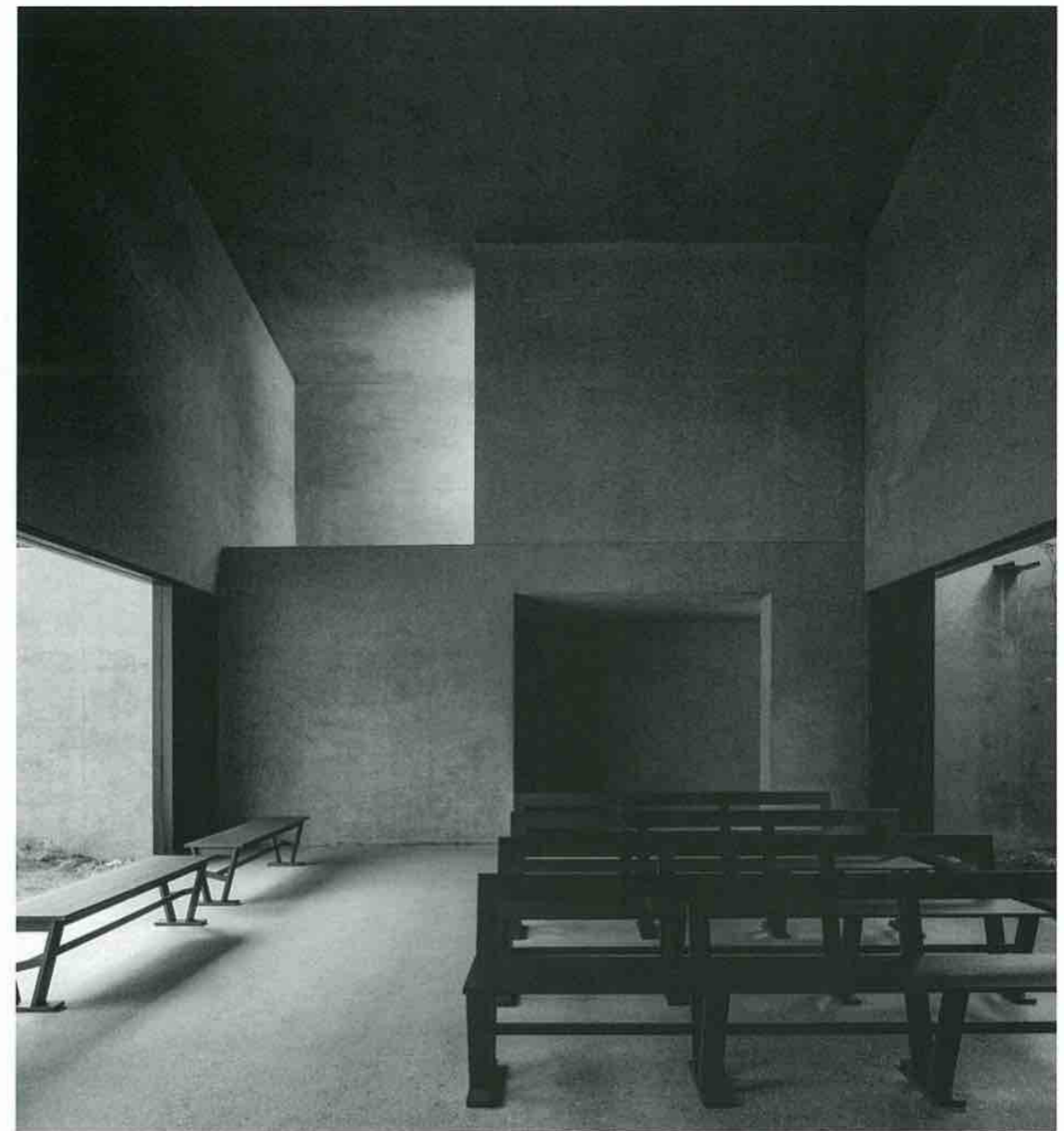
断面C S=1:600



「山野草の庭」。左奥に礼拝堂、右にエントランス。
猪名川の既存植生や俳句に現れる季語から着想された67種の草花や低木により、季節による色彩や質感の変化を緻密に構成している



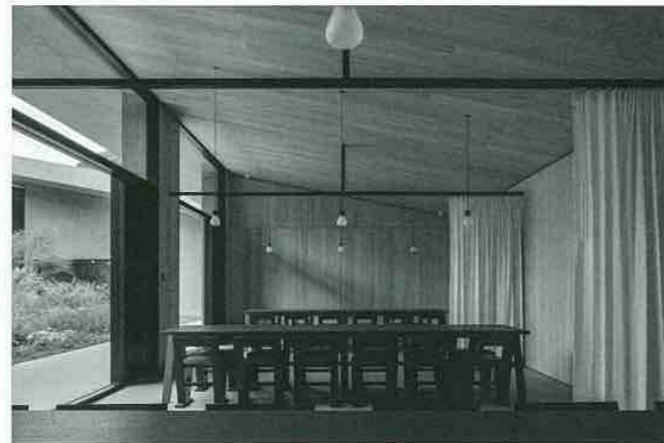
礼拝堂。北東側、祭壇方向を見る。両サイドに静謐な「樹々の庭」を配する。庭の主木は、猪名川に自生するアオダモ。春には白い花、秋には紅葉、冬は幹の表情が印象的



礼拝堂。南西側の入口側を見る。北東側とともにハイサイドから間接光を採り入れている



ビジターラウンジ前より受付棟方向を見る



メモリアルルーム。和紙と布を重ねたカーテンで仕切って使うこともできる



礼拝堂の入口



礼拝堂へのアプローチ